

所長の部屋



所長のひとことアドバイス

胃癌の検査

[2016年11月]

日本では長年にわたり、バリウムを使用した胃X線透視検査（以下、胃透視）による胃癌検診が行われてきました。最近になり、検診や人間ドックで胃透視の代わりに上部消化管内視鏡検査（以下、胃カメラ）を選べるようになってきました。胃透視と胃カメラと、どちらが良いのでしょうか？

私は二つの理由から胃カメラをお勧めします。第一の理由は、胃カメラの方が小さな病変を発見しやすいからです。胃透視は、胃をガスで膨らませ、胃の壁にバリウムを付着させて、胃の表面の凸凹を見る検査です。いわば影絵を見ているようなもので、病変の色は分かりません。それに比べると、胃カメラでは病変の色つやを直接見ることができます。また生検という、病変のごく一部を取って顕微鏡で調べる精密検査もできます。

第二の理由は、胃透視では放射線を使用し、胃カメラでは使用しないからです。1回の胃透視での放射線量は少ないのですが、全く使用しない検査の方が良いでしょう。

胃カメラは、胃透視より苦痛だと言われる方もおられますが、それさえ克服できれば断然胃カメラを受けるべきです。鼻からの胃カメラができる病院や医院も増え、鼻炎などで鼻の穴が細くなければ、こちらの方が楽かも知れません。希望すれば眠った状態で胃カメラをしてくれる医療機関も多くなりました。一度相談してみてもいいでしょうか。